

令和5年度
中心市街地のにぎわいに関する調査

鹿児島市中心市街地活性化協議会

目次

調査概要	1
地区別集計結果	5
業種別集計結果	10
その他 経営・環境変化等について	14

I. 調査概要

1. 調査の目的

鹿児島市では、中心市街地のにぎわい創出や商業等の活性化を図ることを目的に、第3期鹿児島市中心市街地活性化基本計画（平成30～令和4年度の5ヵ年計画。令和5年3月に1年延長変更承認）を策定し、毎年度、事業の進捗状況や目標指標の達成状況等を把握するためフォローアップを行っている。

このフォローアップにおいて、中心市街地の雰囲気や来街者・事業者の声などの数値に現れない定性的な内容についても把握するため、事業者が感じている中心市街地のにぎわいの状況等についてアンケート調査を実施した。

2. 調査の対象

- 〈対象地区〉 ①いづろ・天文館地区
②鹿児島中央駅地区
③上町・ウォーターフロント地区
- 〈対象の業種〉 ①卸・小売業
②飲食・宿泊業
③その他サービス業
- 〈事業者数〉 302 事業所

3. 調査の方法

アンケート調査票による

4. 調査の時期

令和5年9月～令和5年11月

令和5年度中心市街地のにぎわいに関する調査報告

令和5年9月から令和5年11月までの間に実施した中心市街地商業者アンケート調査の結果についてまとめた。

1 調査概要

(1) 調査期間：令和5年9月から令和5年11月までの3か月間

(2) 調査件数：計302件

➤地区別・業種別内訳：下表のとおり（※（ ）内は合計件数に対する割合）

地区別・業種別内訳：下表のとおり（※（ ）内は合計件数に対する割合）

業種	鹿兒島中央駅地区	いづろ・天文館地区	上町・ウォーターフロント地区	合計【業種別】
卸・小売業	26件 (8.6%)	59件 (19.5%)	18件 (6.0%)	103件 (34.1%)
飲食・宿泊業	14件 (4.6%)	42件 (13.9%)	3件 (1.0%)	59件 (19.5%)
その他サービス業	42件 (13.9%)	65件 (21.5%)	33件 (10.9%)	140件 (46.4%)
合計【地区別】	82件 (27.2%)	166件 (55.0%)	54件 (17.9%)	302件 (100.0%)

(3) 調査方法：店舗・事業所にアンケート調査用紙を郵送又はメール（FAX・メールで回収）。

2 集計結果

(1) 集計結果について

① 中心市街地のにぎわい（人通りや活気）について

5年前と比べたにぎわいの状況は、「活気が増している」＋「どちらかといえば活気が増している」の割合から「元気がなくなってきた」＋「どちらかといえば元気がなくなってきた」の割合を差し引いたD.I.*で表すと6.0（前回調査▲18.4）となっており、5年前よりもにぎわいの状況が好転したと感じている商業者の方が多かった。

② 中心市街地の商業面での魅力（商業施設、商店街イベント等）について

5年前と比べた商業面での魅力の状況は、「魅力が向上した」＋「どちらかといえば魅力が向上した」の割合から「魅力が低下した」＋「どちらかといえば魅力が低下した」の割合を差し引いたD.I.は31.1（前回調査16.9）となっており、商業面での魅力は5年前よりも向上したと感じている商業者の方が多かった。

※D.I.：Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略。企業の業況感や設備、雇用人員の過不足などの各種判断を指数化したもの。

D.I. = （プラスの回答件数構成百分比）－（マイナスの回答件数構成百分比）

③ 中心市街地の様子について

項目毎のD. I. 及びこの結果から考えられることは以下のとおり。

項目		D. I.	
		令和5年	前回調査
1 人通りの様子について	(1) 人通り全般	▲15.2	▲60.9
	(2) 外国人観光客	10.6	▲83.6
	(3) 若者	▲6.3	▲55.6
2 商店街の様子について	(1) 魅力ある店舗	▲7.0	▲1.9
	(2) 空き店舗	57.6	49.3
3 イベントの状況について	(1) 商店街のイベント	▲1.0	▲10.6
	(2) 観光客向けのイベント	▲27.5	▲37.2
4 まちの状況について	(1) 街並	27.8	23.7
	(2) 公園、憩いの場	18.2	13.0
	(3) 交通の便	▲27.8	▲9.2
5 貴店の状況について	(1) 売上	▲17.5	▲64.3
	(2) 人手不足の状況	18.9	20.3

➤1 人通りの様子について

新型コロナウイルスの影響が薄らぎ、人通りそのものが多少戻ってきている。マイナス幅は、前回調査と比べ大きく縮小した。

➤2 商店街の様子について

魅力ある店舗は減少し、空き店舗は増加していると感じている商業者が多かった。

➤3 イベントの状況について

イベントについては物足りないと感じており、特に観光客向けのイベントはまだ十分でないと感じている商業者が多かった。ただ、前回調査と比べ、マイナス幅は縮小。

➤4 まちの状況について

街並み・景観のきれいさ、公園、憩いの場は充実したと感じる一方で、交通の便に関しては不便になったと感じている商業者が多かった。

➤5 貴店の状況について

売上は依然マイナスとなったが、大きく戻りつつある。人手は不足していると感じている商業者が多かった。

④ 中心市街地はどんなまちであってほしいかについて

「魅力ある店舗や飲食店があるまち」84.8%（前回調査 94.2%）が最も多く、8割を超えた。次いで「安心・安全に暮らせるまち」70.9%（同 80.7%）、「街並みや景観が美しいまち」68.2%（同 57.0%、5番目）の順であった。

(2) 地区別の集計結果について（「地区別」参照。）

アンケート調査を行った店舗は地区別に、鹿児島中央駅地区 82 件（27.2%）、いづろ・天文館地区 166 件（55.0%）、上町・ウォーターフロント地区 54 件（17.9%）であった。

① 中心市街地のにぎわい（人通りや活気）について

各地区の D. I. は、数字が大きい順に、鹿児島中央駅地区が 37.8（前回調査 0.0））、上町・ウォーターフロント地区▲3.7（同▲29.0）、いづろ・天文館地区▲6.6（同▲21.4）であった。

いづろ・天文館地区、上町・ウォーターフロント地区ではにぎわいが減ってきていると感じている商業者が多かったが、鹿児島中央駅地区では、にぎわいに関して大幅に増加した。いずれの地区も、前回調査より好転してきている。

② 中心市街地の商業面での魅力（商業施設、商店街イベント等）について

各地区の D. I. は、数字が大きい順に、鹿児島中央駅地区 50.0（前回調査 30.2）、いづろ・天文館地区 27.1（同 13.7）、上町・ウォーターフロント地区 14.8（同 9.7）であった。

鹿児島中央駅地区、いづろ・天文館地区及び上町・ウォーターフロント地区いずれもプラス（前回調査と比較すると大きく好転）となり、商業面での魅力が向上していると感じている商業者が多かった。

③ 中心市街地の様子について

項目毎・地区毎のD.I.及びこの結果から考えられることは以下のとおり。

項目		中央駅	いづろ ・天文館	上町・ウォー ターフロント
1 人通りの様子について	(1) 人通り全般	6.1	▲25.3	▲16.7
		(▲62.8)	(▲64.1)	(▲45.2)
	(2) 外国人観光客	13.4	5.4	22.2
		(▲81.4)	(▲90.8)	(▲61.3)
	(3) 若者	18.3	▲16.9	▲11.1
		(▲55.8)	(▲62.6)	(▲22.6)
2 商店街の様子について	(1) 魅力ある店舗	22.0	▲21.7	▲5.6
		(23.3)	(▲8.4)	(▲9.7)
	(2) 空き店舗	29.3	71.1	59.3
		(9.3)	(59.5)	(61.3)
3 イベントの状況について	(1) 商店街のイベント	▲7.3	1.2	1.9
		(▲4.7)	(▲9.9)	(▲25.8)
	(2) 観光客向けのイベント	▲31.7	▲27.7	▲20.4
		(▲27.9)	(▲38.2)	(▲41.9)
4 まちの状況について	(1) 街並・景観	43.9	21.1	24.1
		(25.6)	(19.1)	(35.5)
	(2) 公園、憩いの場	23.2	17.5	13.0
		(9.3)	(11.5)	(22.6)
	(3) 交通の便	▲28.0	▲30.1	▲20.4
		(0.0)	(▲16.0)	(6.5)
5 貴店の状況について	(1) 売上	▲13.4	▲16.3	▲27.8
		(▲81.4)	(▲62.6)	(▲51.6)
	(2) 人手不足の状況	8.5	24.7	16.7
		(11.6)	(22.1)	(22.6)

注:()内は前回調査(令和4年11月～令和5年1月)

項目毎・地区毎の D. I. 及びこの結果から考えられることは以下のとおりである。

1 人通りの様子について

いずれの地区においても前年度調査と比較して好転している。鹿児島中央駅地区では、全ての項目で「増えた」という回答が多かった。他の地区では、外国人観光客はプラスに転じたが、人通り全般、若者が依然マイナスとなり、「減った」と感じている商業者が多かった。ただ、そのマイナス幅は大きく縮小し、改善がみられた。

2 商店街の様子について

鹿児島中央駅地区では、魅力ある店舗が増加してきていると感じている商業者が多かったが、いづろ・天文館地区及び上町・ウォーターフロント地区では減少してきていると感じている商業者が多かった。しかも、いづろ・天文館地区では、「減った」と感じる商業者が前回調査より増加している。

空き店舗は、いずれの地区の商業者も増加していると感じており、特に、鹿児島中央駅地区（9.3⇒29.3）、いづろ・天文館地区（59.5⇒71.1）で増加していると感じている商業者が多かった。

3 イベントの状況について

商店街のイベントは、鹿児島中央駅地区で物足りないという回答が多かった。他2地区については、「充実してきた」と感じている商業者が増加している。

また、観光客向けのイベントについては、すべての地区で「物足りない」と感じている商業者が多かった。鹿児島中央駅地区では（▲27.9⇒▲31.7）と「物足りない」という回答が増加している。他2地区のマイナス幅は、やや縮小した。

4 まちの状況について

いずれの地区も、街並み・景観のきれいさ、公園、憩いの場については、「きれいになってきた」「充実した」と感じている商業者が多い。鹿児島中央駅地区で前者が18.3ポイント（25.6⇒43.9）、後者が13.9ポイント（9.3⇒23.2）増加している。

また、交通の便については、いずれの地区も「不便になった」回答が多い。地区別には鹿児島中央駅地区が▲28.0（前回調査 0.0）、いづろ・天文館地区が▲30.1（同 16.0）、上町・ウォーターフロント地区が▲20.4（同6.5）となっており、「不便になった」と感じている商業者が多かった。

5 貴店の状況について

いずれの地区も、売上が減ったと感じている商業者が多かった。ただ、前回調査ではいずれの地区も 50 ポイント超の大幅なマイナスだったのに比べると、マイナス幅は縮小している。特に、鹿児島中央駅地区で 68.0 ポイント（▲81.4⇒▲13.4）、いづろ・天文館地区で 46.3 ポイント（▲62.6⇒▲16.3）マイナス幅が縮小している。

人手はいずれの地区においても「不足している」と感じている商業者が多かった。地区別では、いづろ・天文館地区が 24.7（前回調査 22.1）で最も高くなっている。

④ 中心市街地はどんなまちであってほしいかについて

	1位	2位	3位
全 体	魅力ある店舗や飲食店があるまち（84.8%）	安心・安全に暮らせるまち（70.9%）	街並みや景観が美しいまち（68.2%）
鹿児島中央駅地区	魅力ある店舗や飲食店があるまち（85.4%）	安心・安全に暮らせるまち（70.7%）	公共交通機関の利便性が高いまち（68.3%）
いづろ・天文館地区	魅力ある店舗や飲食店があるまち（88.0%）	安心・安全に暮らせるまち（72.3%）	街並みや景観が美しいまち（70.5%）
上町・ウォーターフロント地区	魅力ある店舗や飲食店があるまち（74.1%）	街並みや景観が美しいまち（70.4%）	安心・安全に暮らせるまち（66.7%）

全体では、「魅力ある店舗や飲食店があるまち」84.8%（地区別 85.4%、88.0%、74.1%）、「安心・安全に暮らせるまち」70.9%（同 70.7%、72.3%、66.7%）が上位2つ。

鹿児島中央駅地区は、「安心・安全に暮らせるまち」（85.4%）が最多で、「安心・安全に暮らせるまち」（70.7%）、「公共交通機関の利便性が高いまち」（68.3%）が続いた。

いづろ・天文館地区は、「魅力ある店舗や飲食店があるまち」（88.0%）が最多で、「安心・安全に暮らせるまち」（72.3%）、「街並みや景観が美しいまち」（70.5%）が続いた。

上町・ウォーターフロント地区は、「魅力ある店舗や飲食店があるまち」（74.1%）が最多で、「街並みや景観が美しいまち」（70.4%）、「安心・安全に暮らせるまち」（66.7%）が続いた。

鹿児島中央駅地区といづろ・天文館地区の回答を比較すると、「地域住民による活動が活発なまち」で、鹿児島中央駅地区の方が 5.2 ポイント（前回調査 30.4 ポイント）高かった。逆に、「働く場所がたくさんあるまち」では 13.4 ポイント（同 21.8 ポイント）、いづろ・天文館地区の方が高かった。

鹿児島中央駅地区と上町・ウォーターフロント地区を比べると、「魅力ある店舗や飲食店があるまち」「娯楽・スポーツが楽しめるまち」「働く場所がたくさんあるまち」の3つの項目では、鹿児島中央駅地区が10ポイント以上高く、「歴史や文化を感じられるまち」では、上町・ウォーターフロント地区の方が10ポイント以上高かった。

いづろ・天文館地区と上町・ウォーターフロント地区を比べると、「魅力ある店舗や飲食店があるまち」「観光客でにぎわうまち」「医療・福祉施設が充実しているまち」「働く場所がたくさんあるまち」「車で来街しやすいまち」の5項目でいづろ・天文館地区が10ポイント以上高く、「地域住民による活動が活発なまち」では、上町・ウォーターフロント地区の方が10ポイント以上高かった。

【地区別の比較】

	中央駅-天文館	中央駅-上町	天文館-上町
魅力ある店舗や飲食店があるまち	▲2.6(0.1)	11.3 (5.0)	13.9 (4.9)
大規模な商業施設があるまち	0.2(18.3)	5.9 (37.0)	5.7 (18.6)
イベントやお祭りが盛んなまち	▲5.5(▲1.7)	▲4.2 (10.8)	1.2 (12.5)
観光客でにぎわうまち	▲6.0 (7.6)	8.0 (14.6)	14.1 (6.9)
歴史や文化を感じられるまち	▲7.9 (▲2.6)	▲12.9 (▲19.4)	▲5.0 (▲16.8)
街並みや景観が美しいまち	▲8.3 (▲15.3)	▲8.2 (▲20.3)	0.1 (▲5.0)
公園や広場など憩いややすらぎのあるまち	0.6 (▲14.8)	1.9 (▲14.6)	1.3 (0.2)
安心・安全に暮らせるまち	▲1.6 (19.1)	4.1 (26.7)	5.6 (7.6)
地域住民による活動が活発なまち	5.2 (30.4)	▲7.2 (20.3)	▲12.4 (▲10.1)
医療・福祉施設が充実しているまち	3.4 (7.1)	13.8 (2.6)	10.4 (▲4.5)
娯楽・スポーツが楽しめるまち	4.7 (▲9.7)	10.7 (▲5.9)	6.0 (3.8)
働く場所がたくさんあるまち	▲13.4 (▲21.8)	13.7 (▲3.1)	27.1 (18.7)
公共交通機関の利便性が高いまち	▲0.4 (5.6)	9.0 (▲5.9)	9.4 (▲11.4)
車で来街しやすいまち	▲5.6 (▲3.0)	7.6 (16.2)	13.2 (19.2)

注1：中央駅＝鹿児島中央駅地区、天文館＝いづろ・天文館地区、上町＝上町・ウォーターフロント地区

注2：中央駅-天文館の例

「魅力ある店舗や飲食店があるまち」85.4%（中央駅）－88.0%（天文館）＝▲2.6

（ ）内は前回調査

(3) 業種別の集計結果について（「業種別」参照。）

アンケート調査を行った店舗を卸・小売業 103 件（34.1%）、飲食・宿泊業 59 件（19.5%）、その他サービス業 140 件（46.4%）の 3 業種に区分した。

① 中心市街地のにぎわい（人通りや活気）について

各業種の D.I. は、数字が大きい順に、飲食・宿泊業 16.9（同▲18.6）、その他サービス業 12.1（前回調査▲9.7）、卸・小売業▲8.7（同▲22.9）であった。

いずれの業種も、にぎわいが戻ってきていると感じている商業者が多かった。

② 中心市街地の商業面での魅力（商業施設、商店街イベント等）について

各業種の D.I. は、数字が大きい順に、飲食・宿泊業 37.3（同 16.9）、その他サービス業 32.1（同 30.6）、卸・小売業 26.2（同 9.6）であった。

いずれの業種も、魅力が向上していると感じている商業者が多かった。

③ 中心市街地の様子について

項目		卸・小売り	飲食・宿泊	その他 サービス
1 人通りの様子について	(1) 人通り全般	▲30.1	▲10.2	▲6.4
		(▲61.4)	(▲64.4)	(▲56.5)
	(2) 外国人観光客	14.6	1.7	11.4
		(▲83.1)	(▲88.1)	(▲79.0)
	(3) 若者	▲18.4	0.0	0.0
		(▲68.7)	(▲45.8)	(▲46.8)
2 商店街の様子について	(1) 魅力ある店舗	▲19.4	▲10.2	3.6
		(▲12.0)	(▲6.8)	(▲14.5)
	(2) 空き店舗	61.2	66.1	51.4
		(50.6)	(42.4)	(53.2)
3 イベントの状況について	(1) 商店街のイベント	▲13.6	1.7	7.1
		(▲16.9)	(0.0)	(▲9.7)
	(2) 観光客向けのイベント	▲34.0	▲28.8	▲22.1
		(▲45.8)	(▲28.8)	(▲30.6)
4 まちの状況について	(1) 街並・景観	34.0	15.3	28.6
		(19.3)	(23.7)	(29.0)
	(2) 公園、憩いの場	13.6	13.6	23.6
		(10.8)	(13.6)	(16.1)
	(3) 交通の便	▲28.2	▲33.9	▲25.0
		(▲15.7)	(▲10.2)	(0.0)
5 貴店の状況について	(1) 売上	▲32.0	▲16.9	▲7.1
		(▲63.9)	(▲74.6)	(▲56.5)
	(2) 人手不足の状況	15.5	28.8	17.1
		(21.7)	(22.0)	(16.1)

注:()内は前回調査(令和4年11月~令和5年1月)

項目毎・業種毎の D. I. 及びこの結果から考えられることは以下のとおりである。

1 人通りの様子について

人通りの様子については、いずれの業種でも前年度調査と比較して好転していると感じている商業者が多かった。とりわけ外国人観光客では卸・小売業 14.6（前回調査▲83.1）、飲食・宿泊業 1.7（同▲88.1）及びその他サービス業 11.4（同▲79.0）とプラスに転じている。

人通り全般はマイナス幅が縮小し「減った」と感じている商業者が依然多かったが、若者については、卸・小売業で依然マイナスだが、飲食・宿泊業、その他サービス業では均衡してきている。

2 商店街の様子について

魅力ある店舗については、その他サービス業 3.6（前回調査▲14.5）でプラスに転じた。ただ、卸・小売業▲19.4（同▲12.0）及び飲食・宿泊業▲10.2（同▲6.8）においてはマイナス幅が拡大している。

空き店舗はいずれの業種も増加していると感じている商業者が多かった。前回調査と比較すると、卸・小売業で 10.6 ポイント（前回調査 50.6⇒61.2）、飲食・宿泊業で 23.7 ポイント（同 42.4⇒66.1）の 2 業種でマイナス幅が拡大している。

3 イベントの状況について

商店街イベントについては、卸・小売業で物足りないと感じる商業者が多かったものの飲食・宿泊業、その他サービス業では充実してきたと感じている商業者が多くなった。

観光客向けのイベントについては、全ての業種で 20 ポイント以上のマイナスとなり、物足りないと感じている商業者が多かった。

4 まちの状況について

いずれの業種においても、街並み・景観のきれいさ、公園、憩いの場が充実していると感じている商業者が多かった。交通の便では、いずれの業種でも不便になったと感じている商業者が多く、前回調査と比較すると、卸・小売業で、12.5 ポイント減少（前回調査▲15.7⇒▲28.2）、飲食・宿泊業で 23.7 ポイント減少（同▲10.2⇒▲33.9）、その他サービス業 25.0 ポイント減少（0.0⇒▲25.0）している。

5 貴店の状況について

売上は、全ての業種において改善はしているものの、いずれの業種でもマイナスとなっている。マイナス幅が特に大きい業種は、卸・小売業で▲32.0（前年度比 31.9 ポイント悪化）となった。

人手については、いずれの業種とも不足していると感じている商業者が多かった。特に飲食・宿泊業で 6.8 ポイント（前回調査 22.0⇒28.8）増加している。

④ 中心市街地はどんなまちであってほしいかについて

いずれの業種も「魅力ある店舗や飲食店があるまち」が 84.8%（卸・小売業 86.4%、飲食・宿泊業 81.4%、その他サービス業 85.0%）で最も多かった。

卸・小売業は、「公共交通機関の利便性が高いまち」（72.8%）、「安心・安全にらせるまち」（67.0%）と続いた。

飲食・宿泊業は、「安心・安全にらせるまち」（78.0%）、「街並みや景観が美しいまち」（67.8%）と続いた。

その他サービス業は、「街並みや景観が美しいまち」（72.1%）、「安心・安全にらせるまち」（70.7%）と続いた。

卸・小売業と飲食・宿泊業を比較すると、「公共交通機関の利便性が高いまち」、「車で来街しやすいまち」は、卸・小売業が 10 ポイント以上高く、「安心・安全に暮らせるまち」では、飲食・宿泊業が 10 ポイント以上高かった。

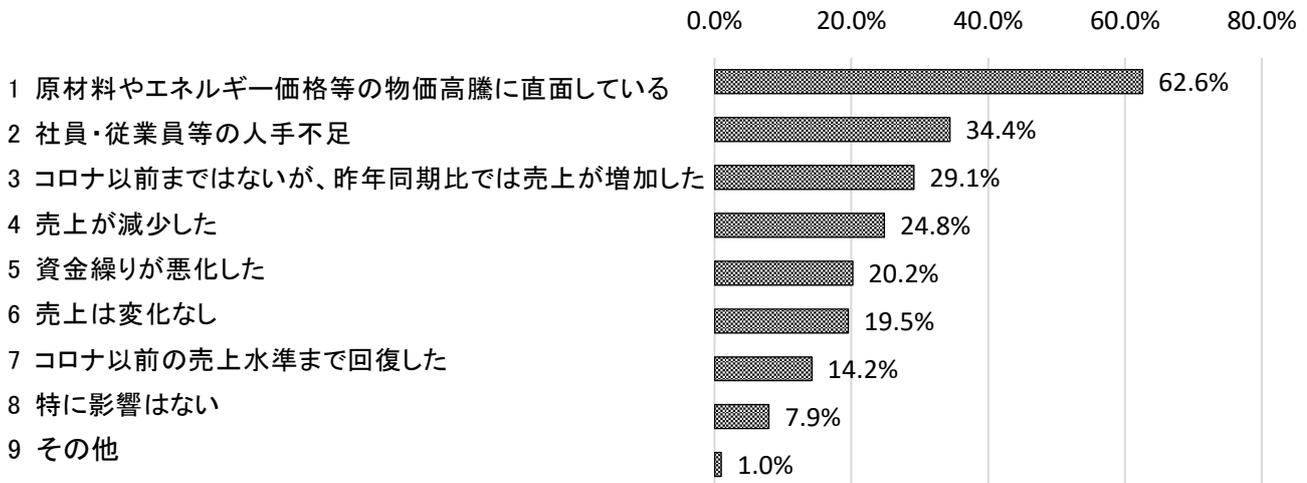
卸・小売業とその他サービス業を比べると、「車で来街しやすいまち」は、卸・小売業の方が 10 ポイント以上高かった。

飲食・宿泊業とその他サービス業を比べると、「観光客でにぎわうまち」は、飲食・宿泊業の方が 10 ポイント近く高かった。

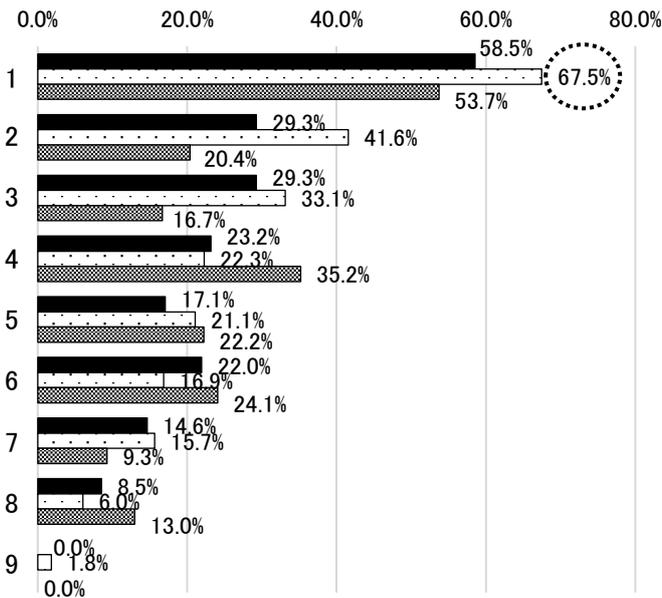
【その他 経営・環境変化等について】

問6 令和5年5月の新型コロナウイルスの感染症の5類感染症移行後の貴店の状況について（9月30日現在）

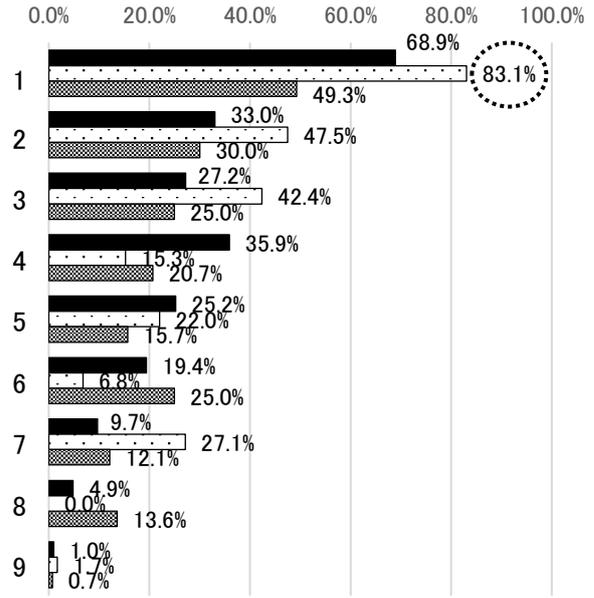
半数以上の回答は「原材料やエネルギー価格等の物価高騰に直面している」（62.6%）であった。次いで「社員・従業員等の人手不足」（34.4%）、「コロナ以前までではないが、昨年同期比では売上が増加した」（29.1%）が続く。「原材料やエネルギー価格等の物価高騰に直面している」については、地区別には、いづろ・天文館地区（67.5%）、業種別には、飲食・宿泊業（83.1%）で高い割合となっている。「社員・従業員等の人手不足」についても同様の傾向となっている。



【地区別】



【業種別】



■鹿児島中央駅 □いづろ・天文館 ▨上町・ウォーターフロント

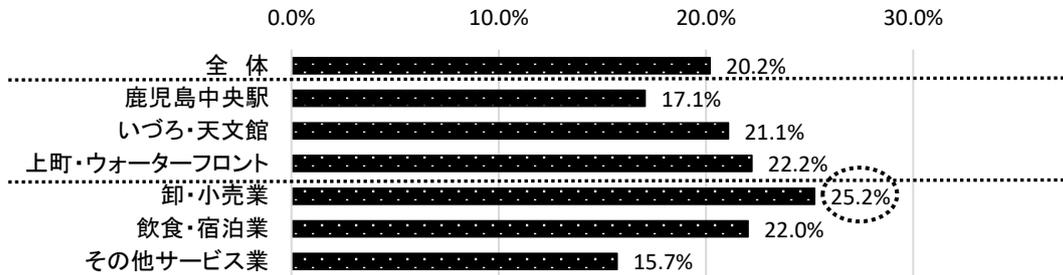
■卸・小売業 □飲食・宿泊業 ▨その他サービス業

注：番号は、上のグラフの回答と同じ

問7 問6にて「資金繰りが悪化している」と回答した事業者の方へ

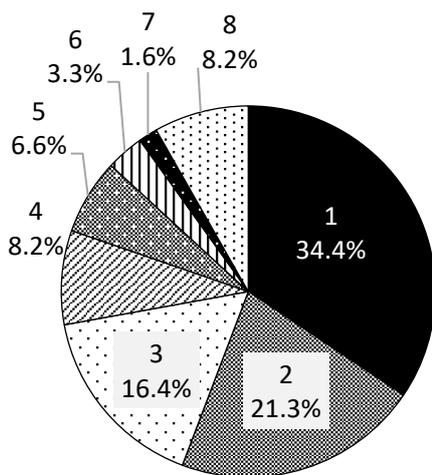
実質無担保・無保証融資「ゼロゼロ融資」の利用状況について

回答率は、「卸・小売業」が25.2%となり、ほぼ4分の1の事業者が占めた。



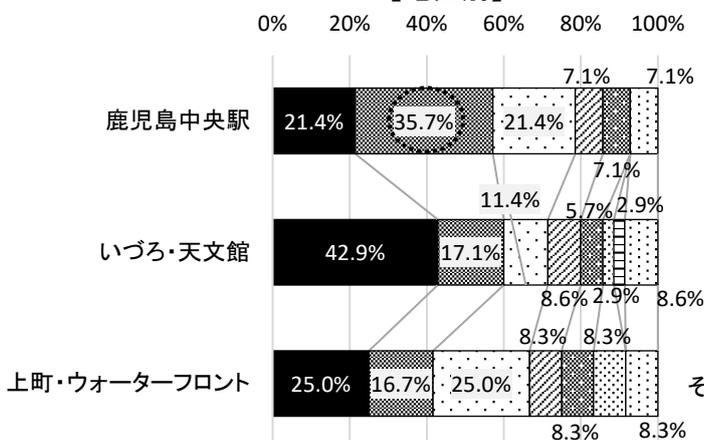
「資金繰りに不安はあるが、現時点では金融機関に相談はしていない」(34.4%)、「既往債務の返済猶予等の条件変更を受けた」(21.3%)、「新規・追加融資や借換により希望通りの条件で新たな資金を調達できた」(16.4%)の順。鹿児島中央駅地区では、「既往債務の返済猶予等の条件変更を受けた」(35.7%)が最も高い割合となっている。「返済が厳しく、事業を撤退した」では、卸・小売業で3.8%(他業種はゼロ)となった。

【全体】

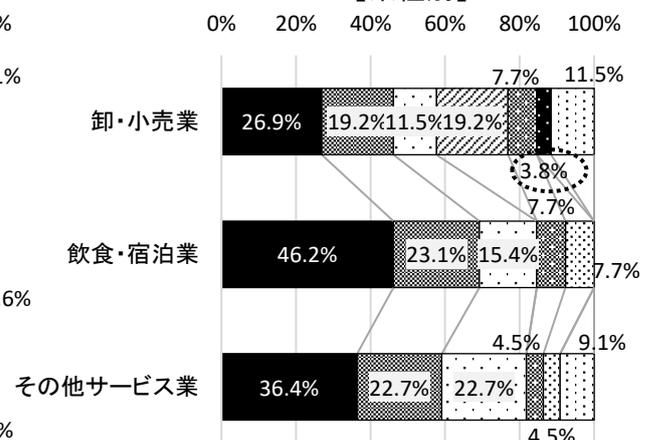


- 1 資金繰りに不安はあるが、現時点では金融機関に相談はしていない
- 2 既往債務の返済猶予等の条件変更を受けた
- 3 新規・追加融資や借換により希望通りの条件で新たな資金を調達できた
- 4 既往債務の同額での借換えにより、返済負担を軽減できた
- 5 金融機関の審査待ち
- 6 融資・条件変更を受けられなかった
- 7 返済が厳しく、事業を撤退した
- 8 その他

【地区別】



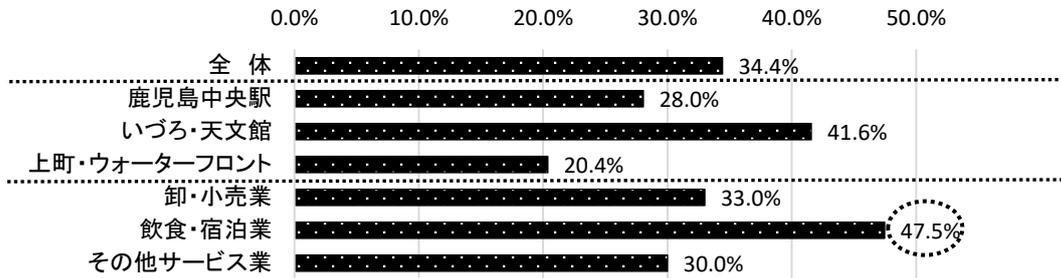
【業種別】



注: 回答区分は、上のグラフの回答と同じ

問8 問6にて「社員・従業員等の人手不足」と回答した事業者の方へ

回答率は、「飲食・宿泊業」が47.5%となり、半数近い事業者が占めた。

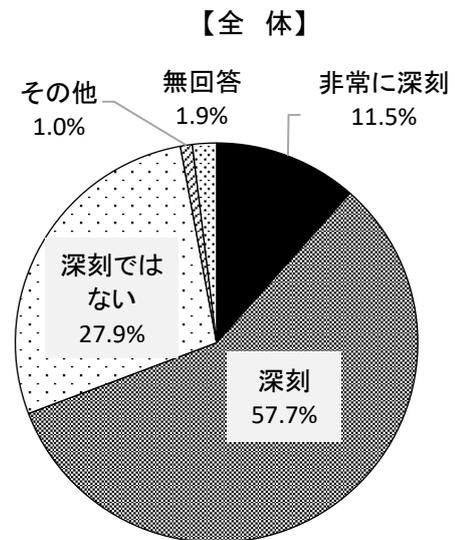


(1) 人材不足の深刻度について

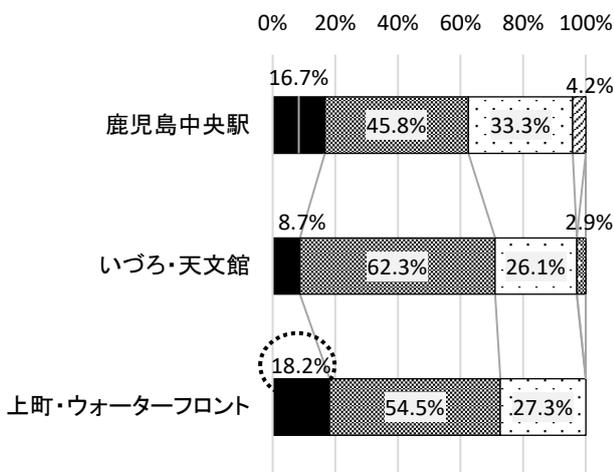
人手不足の深刻度については、「非常に深刻」「深刻」あわせて約7割の事業者が回答した。

地区別には上町・ウォーターフロント地区（72.7%）、業種別には、飲食・宿泊業（71.4%）が相対的に高い割合となっている。特に、上町・ウォーターフロント地区では、「非常に深刻」が2割近い18.2%の事業者が回答し、その他サービス業でも14.3%を占めた。

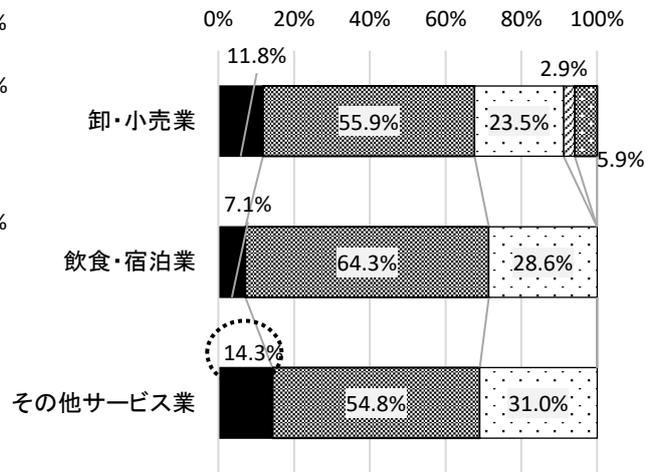
一方、「深刻ではない」では、地区別には鹿児島中央駅地区、その他サービス業で相対的に高い。



【地区別】



【業種別】



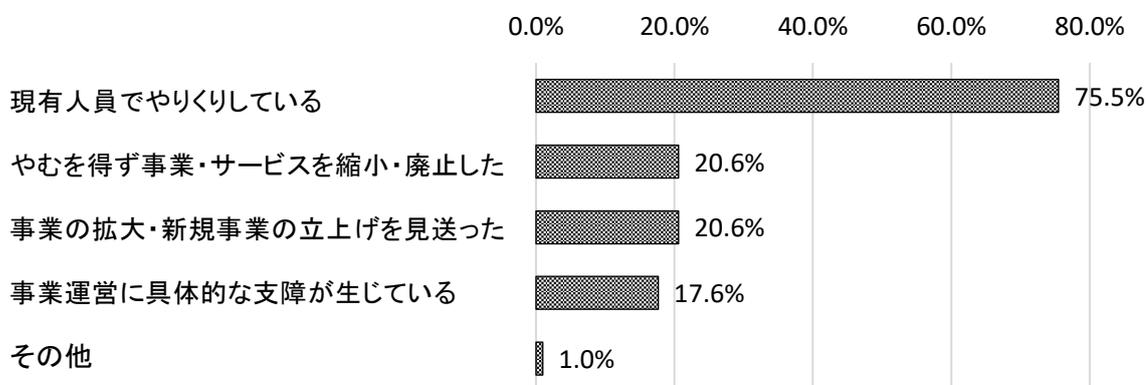
■非常に深刻 ■深刻 □深刻ではない ▨その他 ■無回答

(2) 人材不足の影響について

人材不足の影響については、「現有人員でやりくりしている」が75.5%と大半を占め、「やむを得ず事業・サービスを縮小・廃止した」「事業の拡大・新規事業の立上げを見送った」（ともに20.6%）と続いた。「事業運営に具体的な支障が生じている」も2割近い。

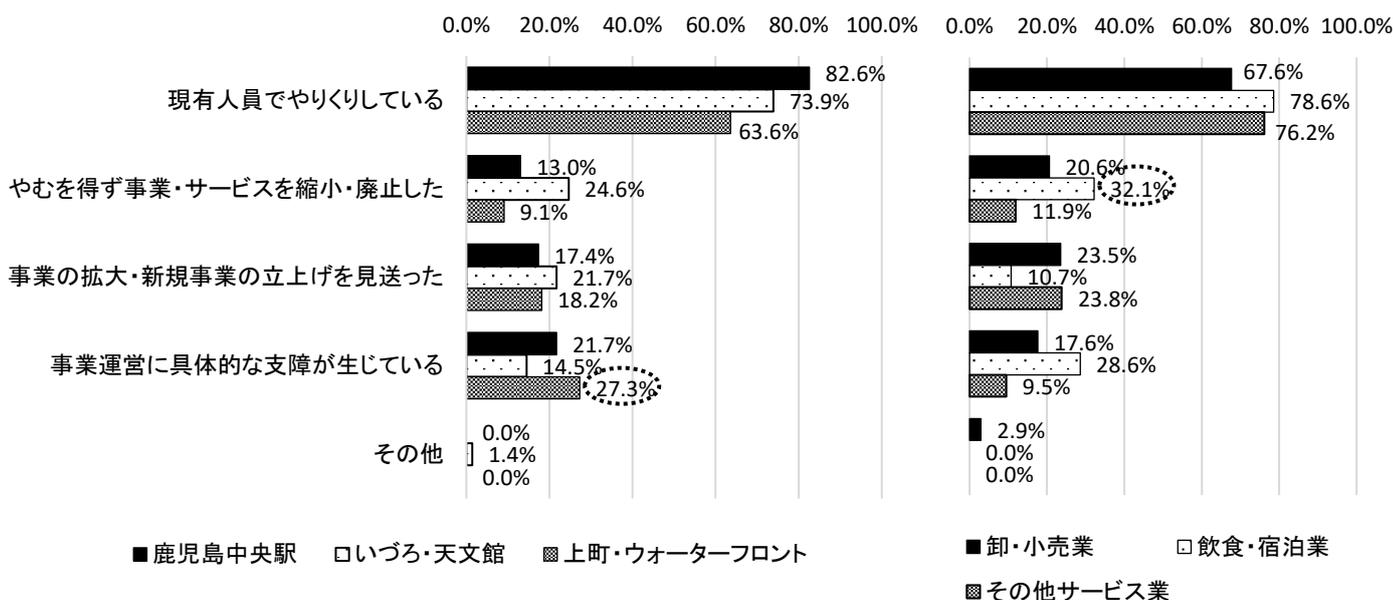
「現有人員でやりくりしている」以外、実際、問題に直面した回答では、地区別には、上町・ウォーターフロント地区で「事業運営に具体的な支障が生じている」が27.3%、業種別には、飲食・宿泊業で「やむを得ず事業・サービスを縮小・廃止した」が32.1%と高い割合となっている。

【全体】



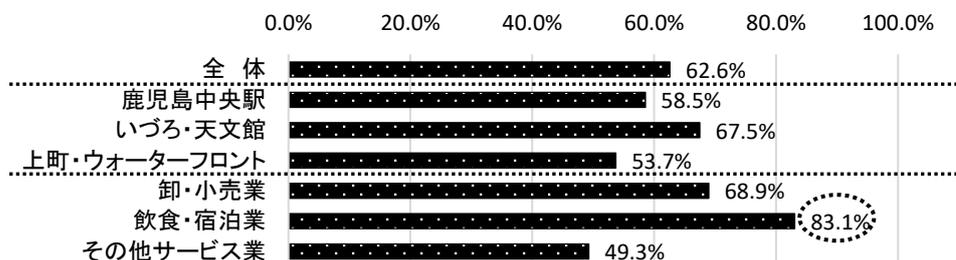
【地区別】

【業種別】



問9 問6にて「原材料やエネルギー価格等の物価高騰に直面している」と回答した事業者の方へ

回答率については、以下のとおり。「飲食・宿泊業」が83.1%で最多であった。

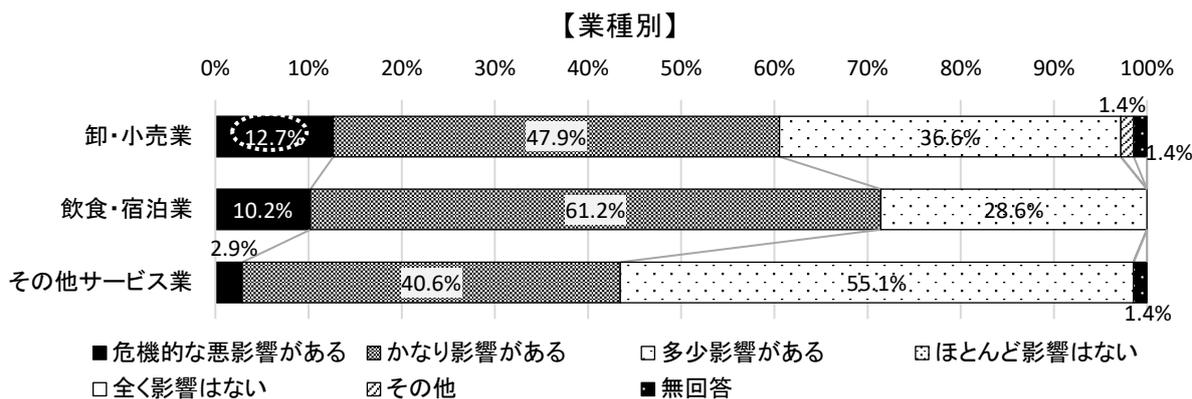
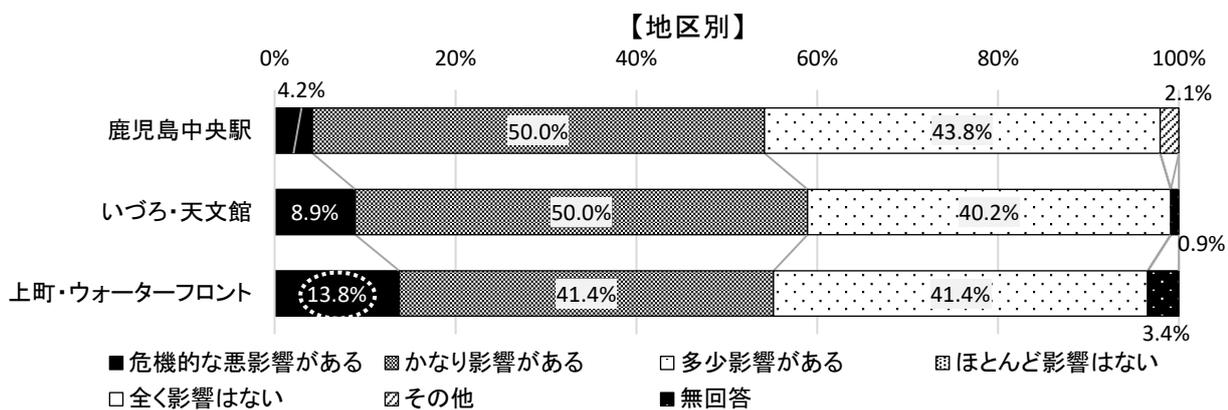
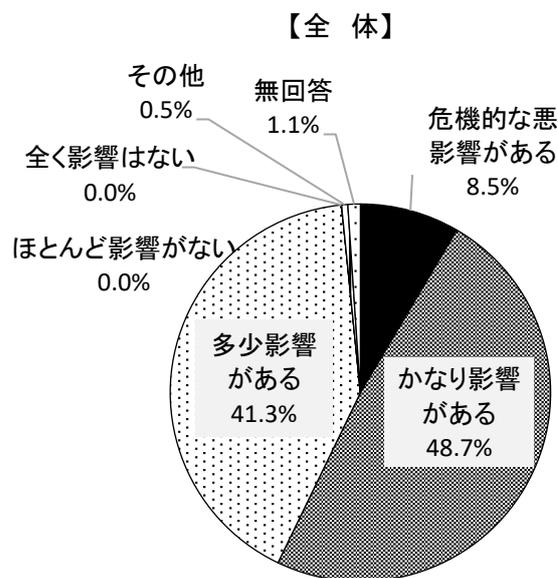


(1) 材料・エネルギー価格等の物価高騰の影響度について

材料・エネルギー価格等の物価高騰の影響については、特に「危機的な影響がある」と回答した事業者は、8.5%と1割弱を占めた。

「かなり影響がある」「多少影響がある」あわせると100%に近い。

「危機的な影響がある」を地区別にみると、上町・ウォーターフロント地区で13.8%、業種別で「卸・小売業」12.7%、「飲食・宿泊業」で10.2%と1割を超えた。

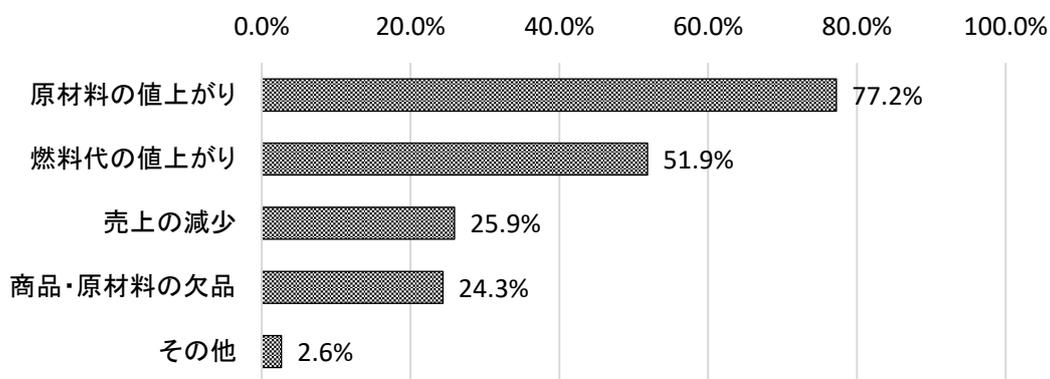


(2) 「影響がある」と回答された方は、具体的な影響について

具体的な影響については、「原材料等の値上がり」(77.2%)、「燃料代の値上がり」(51.9%)、「売上の減少」(25.9%)の順となった。

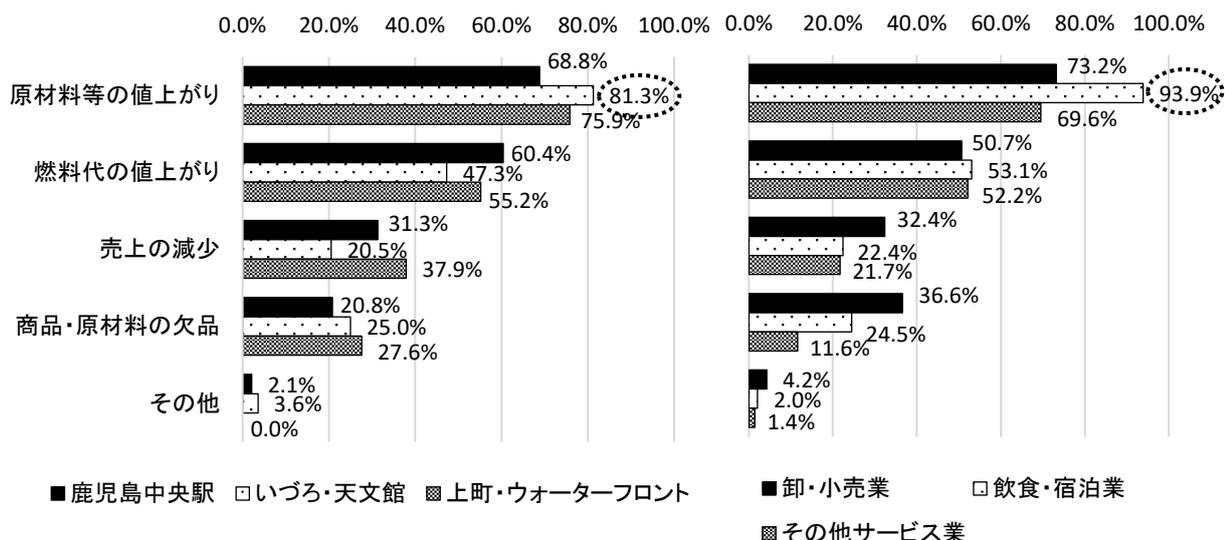
「原材料の値上がり」では、地区別にいづろ・天文館地区が81.3%、業種別で飲食・宿泊業が93.9%となり、それぞれの区分で最も高い割合となっている。また、「商品・原材料の欠品」では、上町・ウォーターフロント地区(27.6%)、卸・小売業(36.6%)で相対的に高い割合となった。

【全体】



【地区別】

【業種別】



(3) 材料・エネルギー価格等の物価高騰に対して実施した対応策について

材料・エネルギー価格等の物価高騰に対して実施した対応策では、「販売価格への転嫁」が(55.6%)、「諸経費の削減」(50.3%)、「商品構成の見直し」(30.7%)の順。上位2つは、半数以上の事業者が回答した。

「販売価格への転嫁」は、地区別では、いづろ・天文館地区で64.3%、業種別では、飲食・宿泊業で63.3%が相対的に高い割合となっている。上町・ウォーターフロント地区、その他サービス業では、「諸経費の削減」(前者51.7%、後者53.6%)が最多で、他地区、他業種と傾向が異なった。

